

平成 30 年度 第 2 回 近江八幡市子ども・子育て会議 要録

日 時 平成 30 年 10 月 25 日 (木) 午後 2 時 30 分～午後 4 時 50 分
場 所 馬淵コミュニティセンター 2 階 大会議室
出席委員 ◎中川 千恵美委員、○小西 ひとみ委員、
寺田 久乃委員、元嶋 雅司委員、石塚 智子委員、川橋 袖子委員、
榊原 かず子委員、伊藤 左登美委員、河村 加恵委員、杉本 僚子委員、
佐野 淳子委員、久家 昌代委員、見島 めぐみ委員
(欠席) 竹下 秀子委員、田中 裕喜委員、中江 栄理香委員、深尾 昌一委員、
重野 弘樹委員、福永 利明委員、大野 康記委員、前出 みずほ委員
◎ : 会長等、○ : 副会長等

傍 聴 者 0 名

議 題 (1) ニーズ調査について
(2) 基本理念等について
(3) 人口推計について

決 定 事 項

ニーズ調査票は修正意見の反映を会長・副会長が行い、11 月下旬には発出すると決定した。
次世代計画から引き継いでいる現在の基本理念を踏襲することに決定した。
人口推計は「コーホート変化率法」により行うことに決定した。

議 事 詳 細

1. 開会 (事務局より、前回指摘事項、障がい児の通所サービスの利用実績等について報告)
2. 会長あいさつ

(会議の開催にあたり会長より挨拶)

会長 今日は井出先生のスローガン「オール for オール」という言葉を改めて考えたいと思う。リンカーンが言ったワン for オール・オール for ワンという言葉は有名だが、オール for オールというのは、社会が、地域がすべての人を包摂することの重要性を改めて伝えていて、取りこぼしのない社会、格差是正というものを本気でどう取り組んでいるかということをお聞きしていると思う。

皆さんが、不安に思っていることを日々埋めて、より良い生活にもっていつている。お互い見えない格差の中で、個人の責任に押しつけてしまいがちだが、本当の意味での相互、今の時代の新たなつながり方、個人としてつながる、地域やお互いにつながる、行政とつながる、また地域の実践者、活動される方がつながる、どんなつながり方が近江八幡に最適な形になるのかということをお聞きしたい。改めてこの限られた時間の中で検討していけたらと思う。

3. 議題

(1) ニーズ調査について

(事務局より、ニーズ調査の設問について説明)

(説明概要)

前回会議での意見を踏まえ、修正箇所・対応方針などニーズ調査票(案)及び周知チラシ(案)について説明した。

委員

内容の変更により、かなり分かりやすく、見やすくなったと思う。「あてはまるものすべてに○」は考えなくてもできるが、数字を入れるものは時間がかかる。

問1(7)「同居されている方」の設問だが、選択肢に「同居」という言葉、「父母」の選択肢はいらない。また、子どもを取り巻く大人の同居を知りたいのだろうが、「その他」には「兄弟姉妹」、「叔父・叔母」など多様であり、表現を少し工夫したほうが良い。

問4-5で「1歳児(満1歳になった翌4月以降)」、問8で「住民税非課税世帯」と書いてあるが、保護者には分かりにくい言葉であると思う。

一番気になったのは、問11からの「この1年間」は、どの1年間を指しているのか。1年間の間に年齢が変わってしまうので答えにくい。今の子どもの年齢でのことを聞く場合、この4月からの日数になってしまい1年間ではない。「年間何日利用していますか」なので、どの1年間での日数だろうと悩んでしまう。

事務局

「この1年」というのは、基本的には記入日から遡って概ね1年間の期間に対する調査として考えています。概ねが分かりにくいのであれば「平成29年11月から平成30年11月までの間」という注釈を入れたほうが良いでしょうか。

委員

父親として答えてみたが、我が家の場合、圧倒的に母親目線の質問が多く、きちんと質問に対して回答を返せているかという不安が率直にあった。正直、細かいところまで夫婦間で話していないと答えられない内容もたくさんあり、父親としてはこのアンケートは難しいなと感じた。

子どもセンターや保育所の利用時間についての設問は、何時何分くらいまで細かく時間を記入できたら良いと思う。

「この1年間」というのは、少しざっくりしていて、正確な日数は見返さないとはい出せないなという印象だった。

委員

私も、先ほどの何歳児は「翌4月以降」とあるから余計に分かりにくいと思う。何歳児というのは一般的には使われず、保育園に通うようになって、先生方から聞くと、年少さんが3歳児なのだと分かる。

問15・16の小学生の回答は、たまたま小学生の兄弟がいる家が対象と思うが、どこから書くのか迷ってしまった。小学2年生であれば2年生の縦の欄を書いたら良いと理解できず、ちょっと考えて違うところから書き始めてしまった。

委員

先ほども時点の意見があったが、問11の場合、昨年11月が2歳の場合でも3歳の欄に書いたらよいのか。現時点の年齢欄に過去1年間のことを書くことが分かる方が良い。兄弟2人のために母親が休んだ日数は足し算になるのか迷った。

問 15 の放課後の過ごし方のところで、放課後等デイサービスが入っていない。問 16 でも放課後児童クラブの利用希望を聞いているが、一部重なっていると思う。

問 17 の利用という言葉の幅が広く、「広報・情報誌」「ホームページ」の利用とはどういう状況を指すのか、見たら利用で良いのか迷った。先ほどの話にあったように縦の欄に書けば良いと分かるのに少し時間がかかった。

一人で回答を頑張るのは難しいと思うので、何人か集まっているようなところで尋ね合いながらできたら良いと感じた。

会長

1年前は2歳だし、2歳のときに何日くらい休んだという理解でも良いと思う。

委員

問 11 の「お子さんの病気等の際の対応」の中、ファミリー・サポート・センターも病児・病後児の預かりをしているが「一定の利用料（1回2,000円）」ではなく1時間750円でお預かりしているが、どう考えるのか。

ファミサポは一時的・緊急的に利用するので、問5で、子どもセンターと2つ利用している場合は何時から何時までと書いたら良いのか迷う。

問8の無償化には、待機児童の方が保育所代わりに利用するなど一定の条件があるが、ファミサポも対象施設に入っているため、どう考えるのか。

事務局

実際の利用はあると思いますが、問11-2は病児・病後児保育施設のニーズ量を出したい設問ですので、ファミサポを一緒に入れるのは難しいと考えます。問11-1によって利用されていることの把握はさせていただきます。

問5は、拠点事業とファミサポの両方のニーズ量を出す設問を一緒にしているため、書きづらいと思いますので、設問を分けようと思います。

会長

本来、問8は、教育保育給付の事業所が無償化になった場合のニーズを聞かせてもらう設問である。

事務局

実態として伺いたいが、待機児童の方の利用はありますか。

委員

今はないが、2～3年前は1週間に何回も利用される方もいた。

事務局

問5を、問5-1のような書き方に換えてはどうでしょうか。それぞれ施設ごとに現在の利用状況と年齢を書いいただければどうかと思います。

会長

施設別に利用状況の設問があつて、どれくらいを書く方が煩雑さが無い。問8の無償化の対象となる一時預かりやファミサポの対応については検討いただきたい。

委員

問7の選択肢1「居住地の小学校区の施設でよい」は抵抗があり、他と同様「施設に預けたい」という表現が良いと思う。

委員

調査対象数が変わってくるが、末子だけの調査であれば他の年齢のところを書かなくてもいい。兄弟姉妹がいる方は回答の時間が少なくなる。末子だけなら、わざわざ年齢を書かずに、一つの枠に一つの数字が書けるので書きやすいと思う。

事務局

ご指摘の通り、国のモデル調査票は「宛名のお子さん」に対して設問ができています。近江八幡市の場合は、前回の時も0～5歳児、それぞれのお子さんの状況について回答いただきました。実際には、子どもセンターに家族で行かれる場合、0歳と2歳のお子さんではほぼ一緒の回答になると思いますが、もう少しお子さんの状況にあった現実的な聞き方をしたいということで、すべてのお子さんの状況を聞く調査票にしています。欲張っていることが、ややこしくなっている状況です。

事務局 問8は、ファミサポ、一時預かり、認可外保育施設も無償化の対象になっていますが、まず保育の必要性があることが前提です。保護者の立場としては、保育の必要性があれば、1番目は保育所や認定こども園などに申し込みをされると思います。この中に、ファミサポ、一時預かり、認可外保育施設を一緒に書くのは少し違和感があり、こちらが知りたいニーズ調査とは少し違うのかなと思います。

委員 認可外保育施設が選択肢に書いてあるので疑問があった。

事務局 認可外保育施設は、待機児童になられても、どうしても保育施設に預けたいという場合に認可保育所と同じように預けていただいています。1年間を通して入れるので、一時的な預かりとは少し違うと思います。保育の必要な方が利用される場合は無償化の対象ですが、上限があることもあり、この設問でお願いしたいと思います。

事務局 住民税非課税世帯が分かりにくいとのことですが、国の書き方の通りであり、一番易しい書き方としては「市民税がかかっていない世帯」に直せるかと思います。

事務局 無償化の設問は、「無償化であれば使いたいですか」と聞けば、多分「使いたい」という答えが多いことが想定されたので、できるだけ詳しく提示した方がより判断していただけないかと思い、制度のところを詳しく書いています。その結果、最初の一文が制度的な話になり難しく感じてしまうのかと思います。

会長 「無償化になった場合、どの施設を利用したいか」がメインの質問であり、聞きたいことが伝われば一番良いと思う。

会長 就学前の全数調査をする中で、すべての兄弟姉妹の状況を把握できたら、また経年比較もできたらということで、この設問の形になっていると思う。

会長 満年齢の表記については、説明をつけるとごちゃごちゃとしてしまう部分もあり、分かりやすさとの兼ね合いが難しく、工夫がいる。また、放課後の過ごし方に、放課後等デイサービスを入れるという観点も、大事な意見だと思う。

委員 問23から27だが、問25から27の比較的ポジティブな質問に対して「理由」があるのに、問23・24の社会問題になっているような部分に「理由」がないのは何故か。「孤立感を強く感じている」理由は、聞いた方が良い。

委員 問16で、放課後（平日の授業終了後）を、いつまでの時間にするのかと悩んだ。一旦自宅に帰って、6時頃から習い事に行く場合は、自宅に入れるのか、習いごとに入れるのか悩んだ。習いごとは、とりあえず自宅に帰るため「自宅」でも良いのではないか。公園に遊びに行くときもあるし、たくさん選択肢があつて困った。

会長 問16はどこに主眼を置くかということだが、帰ってから習いごとに行っている場合、週1習いごとみたいな感覚でつけてはどうかと思う。

事務局 「この1年間」の件もそうだが、例えば文言に「主に」とか「概ね何日」と入れても同じでしょうか。「主にどこで過ごすか」「概ね何日くらいか」とぼやかすことで、何となくで良いというニュアンスが伝わるのであれば答えやすいでしょうか。

委員 はっきり何日と聞かれるから答えにくい。だいたい何日と聞かれたら楽である。

会長 その週の主な居場所はどこかを聞きたいところ。「主に」を入れることで、何日という部分をおおよそで書いてもらい、今後できればこうしたいというものを、今後の居場所希望というようなことを聞こうとしている。

委員 何日と言うのは、細かく書かないといけないと思ってしまう。大体どの辺で過ごしているかだけを知りたいのであれば「どれかに○」でも良いのかと思う。

会長 日数を事業量として出していくことが必要なのか。

事務局 問 16 はニーズ量を出さない設問です。放課後児童クラブのニーズ把握は問 15 であり、子ども教室など 1 週間の放課後をどこで過ごしているのか、塾に行くのか、地域で過ごしたいのか、そういったことを、施策的には把握したいところです。

会長 問 17 の利用、活用という点は、利用という表現で大体で良いのかもしれませんが。問 23・24 では、理由を問うことが重要というご意見もあった。

委員 障がいのある子のお母さんが答える場合が調査票に含まれていないと感じた。例えば療育などを 6・7 ページの選択肢に入れてもらえると、市としてはきちんと考えた上で質問等を設定してくれていると感じるのではないかと。これでは、一般的なものでしか質問してもらえていないと感じてしまう。回収場所の部分でも「子ども発達支援センター」を入れていただければ、療育に行かれたお母さんもそこで提出できる。

子育てが大変なお母さんたちが回答するのはしんどい作業になる。子どもの目が離せない中で書くのは難しく、途中で子どもが泣き、途中で終わって期限も過ぎてしまう人もたくさんいるのではないかと。回収率を高めたいのであれば、子どもセンターなどで「少し子どもを見ているからここで書いて帰って」とアンケート用紙を渡されたら書いてもらえるのではないかと。回収率を高めるためにも、しんどいお母さんたちの声を拾い上げるためにも、考えても良いのではないかと。

会長 すべての方という視点として、貴重な意見だと思う。

委員 提出先に「ショッピングセンターのサービスカウンター」とあるが、やめた方が良く思う。幼稚園や保育園など、それぞれ利用している場所があれば、わざわざショッピングセンターまで持って行って出すということはほぼないと思う。

委員 提出先の施設に、こういうものが配られます、回収場所になっていますのでよろしくお願ひしますといった了解を得たほうが良い。

事務局 各まちづくり協議会、コミュニティセンターには、回収箱の設置について了解をいただきました。ただし、調査票の詳細な説明まではしていないので、どの程度のものかという理解には及んでいないと思います。また、ショッピングセンター・小児科などは相談している状況ではないため、今あったように、管理上の問題や、出していたく方の抵抗感なども踏まえ、公共の施設だけにしようかと考えます。

会長 皆さんから非常に活発なご意見、当事者視点での貴重なご意見をいただいた。そういった意見を踏まえ、最終的な調整にかかっていけたらと思う。

事務局 11 月末には発送させてもらいたいと思います。会長等と相談・調整をさせていただいた上で最終案をまとめていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。発送する前には、最終案を郵送で案内させていただきます。

会長 今、事務局から説明いただいた手順、段階を経て、皆さんにも最終案をご確認いただくということで、了解をお願いします。

(了承)

(2) 基本理念等について

(事務局より、基本理念等について説明)

(説明概要)

国の動向、前回計画等を踏まえ、基本理念の踏襲等について説明した。

会長 スローガンと言うか、近江八幡としてのテーマであり、打ち出す方向性となる基本理念は「子どもは地域の宝、みんなで見守り育てよう！」を、第2期計画も踏襲したらどうかということです。とてもシンプルだがとても大事な言葉かと思う。この基本理念でよろしいか。

(承認)

会長 前文の「子育ての第一義的責任を果たすべき保護者」というのはそうだと思うが、後半が少し長く、「明るくのびやかに育つ姿」「好奇心、探求心を示す姿」「喜びと期待を持って子育てをしていく」という文言は削除しても良いのではないか。

現時点で、この「めざすまちの姿」のところで、どういう親の姿、子の姿になってほしいのか、親子がどういう関わりを持ち、どういう近江八幡になってほしいのか、こうなったら良いなという率直な意見をいただけたらと思う。

委員 基本理念の前文だが、「子育ての第一義的責任を果たすべき」というと凄く堅い。確かに果たすべきだが「子育ての主役である保護者が」に変えてはどうか。後半が長い場合は「保護者が喜びと期待を持って子育てをしていくため」と変えてはどうか。

委員 他所の子を少し気にするとか、そういった意味で地域ぐるみで支え合うということは凄く大事なことだと思う。自分でも大切にしていきたい。褒めるときは褒めたり、怒るときはしっかりと怒ったりという姿は大事だと思う。

委員 子育てをしている親子を中心として、その周りをみんなで支えられるようなまちの姿であれば孤独感を感じることもなく、虐待も減るのではないかと思う。

委員 3点目の「次代の親を育成するまち」の中で、親育ちというものはぜひ入れていただきたい。

委員 第一義的責任は、すごい責任感を負わされ、子育てが自分を評価されるみたいな感覚になる。親を育てるとかも、逆に親としてできていないから育てられるという受け止めをしてしまうところもあって、それがしんどさに繋がったりもする。

本当に孤独感を感じずに、みんなが地域で見ている、あなた1人じゃないよという中で、一緒に育っていこうねといったまちづくりが良い。親が幸せで気持ちに余裕があれば、子どもも幸せで笑顔でいられると思う。だから、子育て支援は、最終的に子どもの笑顔を大事にしたいが、その前に親の気持ちを一番に考えたまちであってほしいと思う。一緒にという感覚で見守っていただけたらうれしい。

会長 どれも大切なことだと思う。相互に色んな影響を与え合っているが「子育て＝親の評価」という現状もあり、何か自分だけではないというか、地域で一緒に親も育ていく、地域で一緒に子どもを支えていくというまちの姿は、とても大切な視点である。「第一義的責任」は法律文章だが、「主役となる保護者」も貴重な意見だと思う。

(3) 人口推計について

(事務局より、人口推計について説明及び、子育てフェスタについて報告)

(説明概要)

第1期計画同様、コーホート変化率法により人口推計を行う旨を説明した。
だんないで子育てフェスタ2018の実績について報告した。

会長

「だんないで子育てフェスタ」も3年続いて、それぞれの団体の皆さんが関わって参加いただき、ありがとうございます。こういうものが実際の保護者の方にもっと見てもらえるとか、知ってもらえるということも重要だと思う。

4. 閉会挨拶

(会議の閉会にあたり副会長より挨拶)

副会長

私も3人の孫のことを考えて、ニーズ調査をやってみた。やはり3人分を書こうと思うと結構大変だったが、皆さんが3人分を書くとは限らないため、ぜひ、たくさんの方に書いていただいて、たくさんアンケートが集まってくることを期待したいと思う。

閉会